

三菱電機 × 中央共同募金会  
**「三菱電機創立 100 周年記念助成」**  
 助成事業一覧（4 団体）

- ・各団体への助成額：407 万円
- ・助成事業実施期間：2022 年 10 月～2023 年 9 月（一部延長あり）

団体名	特定非営利活動法人 親子の未来を支える会
団体 URL	<a href="https://www.fab-support.org/">https://www.fab-support.org/</a>
団体概要	うまれつきの病気や障がいについて、-1 才(うまれるまえ)からの医療（予防・ピアサポート・胎児治療・福祉との連携等）の支援・啓発事業を行っている。
助成事業名	オンライン相談窓口「胎児ホットライン」の実施と人材育成
助成事業概要	<p>①「胎児ホットライン」の実施（オンライン相談事業）</p> <p>②相談支援員の人材育成（対面&amp;オンラインでの講座、グループワーク、OJT 等の実施による研修）</p> <p>「胎児ホットライン (<a href="https://fetalhotline.fab-support.org">https://fetalhotline.fab-support.org</a>)」とは、胎児に病気が見つかった時、妊婦やその家族を支える仕組みとして、当法人が 2021 年 4 月に開設したオンライン上の相談窓口である。医療機関でも当事者（家族会）団体でもない、「安心して相談しやすい第三者機関」として、中立的な相談窓口を運営している。利用にあたって、相談者費用負担はなく、オンライン上のカレンダーから相談枠を予約し、オンラインで 45 分間の相談をすることができる。</p> <p>相談窓口では、助産師、看護師、遺伝カウンセラー、心理カウンセラー、保健師、社会福祉士/精神保健福祉士、家族会、会社員などの様々なバックグラウンドをもつ「胎児ホットラインでの研修を受けた相談員」が、相談枠毎に 2 名体制で相談に乗っている。</p> <p>本助成金を活用し、相談窓口実施のほか、対面&amp;オンラインでの講座・グループワーク・OJT 等の研修により、人材育成を行い、相談増に対応できる体制を整える。</p> <p>イギリスなどは、同様の民間相談窓口として、ARC（Antenatal Results and Choices）があり、公的医療機関や自治体との密な連携が行われている。妊婦手帳などに相談窓口が記載されて、相談へのアクセスが容易となっている。「胎児ホットライン」も同様の立ち位置で、自治体連携を目指している。</p> <p>③実態調査</p> <p>出生前検査に関連する葛藤は、これまで相談窓口がなく、その葛藤の内容や意思決定のプロセスについての情報が欠如していた。当法人は、相談窓口を運営するなかで、葛藤を感じた当事者の声が集まっているため、社会全体での葛藤の理解と支援体制の向上を目的とした実態調査、情報発信を行う。すでに、複数の研究プロジェクトを進めている。</p>

団体名	特定非営利活動法人 ソルウェイズ
団体 URL	<a href="https://solways.or.jp/">https://solways.or.jp/</a>
団体概要	<p>重い障害や医療的ケアのある子どもが地域でいつまでも生活するには社会的な制度や施設ともに著しく少なく、特にケアを一身に担う母親の精神的、肉体的負担は大きくまた家族全体が疲弊しており、休息を取ることが急務と思われる。ケアのために仕事を辞めざるを得ない保護者も多く、経済面でのひっ迫につながっている。</p> <p>日常の負担軽減や休息、家族の社会参画にはまず子どもを預かってもらえる施設ができることが必要と考え、以下の活動を行っている、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重心型児童発達支援、放課後等デイサービス多機能型：4 か所</li> <li>・重心型放課後等デイサービス、生活介護多機能型：1 か所</li> <li>・居宅支援事業所、居宅訪問型児童発達支援、訪問看護を運営</li> <li>・在宅介護をしている母親の交流イベント、家族会の運営</li> </ul>
助成事業名	重症児または医療的ケア児の居場所づくり
助成事業概要	<p>コロナ禍の中で、重症児または医療的ケア児が日中活動として楽しく、学習することができ、また、日中の在宅での支援及び夜間の預かりをすることで家族のレスパイトまたコロナの緊急対応の居場所をつくる。</p> <p>新型コロナウイルスにより、多くの社会参加の機会が奪われ、また、日中の活動も密にならない活動の実施やオンラインによる活動への参加が多くなった。そこで、次の①～④の活動を実施する。又、このような居場所が必要であることを SNS、HP を通じて普及啓発も行う。</p> <p>①夜間のショートステイ      家族のニーズとして多い夜間のショートステイ。特に、重症度が高く、医療的ケアがある子どもたちは、夜間預かってもらえる場所がほとんどない。そのため、日中は児童デイサービス、夜間をショートステイとすることでこれを可能とし、泊まることができるようにしたい。助成事業ではショートステイのシミュレーションを行う</p> <p>②日中の短時間のレスパイト事業      コロナ禍でデイサービスにも行きにくくなった医療的ケア児の家族が、出かけることができずにいる為、通常の訪問看護ではできない数時間のレスパイトの時間を作る事業を実施する。</p> <p>③近隣の社会体験      新しい社会参加体験として、年7回程度 看護師等同行し社会体験を実施する。社会参加体験ができるところをリスト化しまとめる。</p> <p>④パソコン、オンラインによる訓練のできる環境整備      PC による視線による意思表示の訓練、また来所できない重症児との意思疎通やゲーム等により、個別でも楽しく訓練ができる環境を整える。</p>

団体名	認定特定非営利活動法人 おもちゃの図書館全国連絡会
団体 URL	<a href="https://www.toylib-jpn.org/">https://www.toylib-jpn.org/</a>
団体概要	<p>「障害のある子どもたちに、おもちゃの素晴らしさと遊びの楽しさを」との願いから始まったおもちゃ図書館は、1981年(昭和56年)の国際障害者年を契機に、全国各地に広がっている。「おもちゃの図書館全国連絡会」は、全国にあるおもちゃ図書館活動をネットワーク化し、情報の共有や交流を目的に、1983年に設立された。</p> <p>障害児親子を対象とした活動に始まったおもちゃ図書館では、子育て親子を対象とするところも増えている。開催場所は、公共施設、個人宅や事務所、児童デイ等の施設内、子ども食堂にも広がっている。2022年6月現在、全国354か所のおもちゃ図書館が活動している。</p>
助成事業名	おもちゃ図書館ボランティア交流会・研修会の実施、備品整備、周年記念誌の発行
助成事業概要	<p>コロナ禍の厳しい状況から脱し、活動を軌道に乗せていくため、本助成を活用して次の①～③の事業に取り組みたい。</p> <p>①「おもちゃ図書館ボランティア地域交流会・研修会」の実施          コロナ禍でとだえた地域の結びつきを回復する、「おもちゃ図書館ボランティア地域交流会・研修会」を、全国5～7か所で開催する。          ・開催地域：北海道、東京都、愛知県、四国地域、九州北部地域、首都圏、関西圏で調整。</p> <p>②おもちゃ図書館に必要なおもちゃ、備品の整備          コロナ禍で再開しているおもちゃ図書館活動を応援するため、新しいおもちゃや消毒用品など、運営に必要な用品を整備する。※2023年春までに実施予定。</p> <p>③40周年記念誌の作成・発行          おもちゃの図書館全国連絡会が、2023年に活動40周年を迎える。これまでの活動を整理し多くの方々に周知するとともに、これから活動を発展させていく方策を考える出発点とするために、40周年記念誌を作成・発行する。</p> <p>※事業①③については、2023年12月まで実施期間を延長して実施する。</p>

団体名	特定非営利活動法人 東京英語いのちの電話
団体 URL	<a href="https://telljp.com/">https://telljp.com/</a>
団体概要	東京英語いのちの電話（TELL）は、英語での電話・チャットオンライン相談、精神科クリニックカウンセリングサービス、アウトリーチプログラム、イベント開催を通じて、メンタルヘルス（精神衛生）に問題を抱える国際コミュニティーを支援する事を目的として、1973年に設立。日本全国の個人、学校、大使館、企業、地域団体に対し、メンタルヘルスに対する偏見、自殺防止プロモーション、性的マイノリティー問題、家庭内・性的暴力、児童保護、摂食障害、およびストレスなどに関する問題啓発を行い、メンタルヘルス支援を提供している。TELLは日本国内において、これらの支援サービスを唯一、英語で提供している団体である。
助成事業名	メンタルヘルスに悩む在日外国人が、英語で相談できる24時間（週末）緊急ライフラインサポート体制構築
助成事業概要	<p>1973年設立以来、TELLは高度な研修を修了したボランティアによる匿名無料カウンセリング、および支援を提供してきた。現在、相談窓口は年中無休で午前9時から午後11時まで、サービスの提供を可能とし、50年近く歴史の中で20万件以上の相談に応じている。2017年には、週末夜に緊急チャットオンラインサービスの提供を開始。</p> <p>現在対応出来ていない、夜中の2時から朝9時の”空白の時間帯”（自殺者の相談案件が最も増えるとされる時間帯）のサポート体制整備が、緊急の課題であり、2023年の開設を目指したい。</p> <p>※TELLチャットとは、日本国内で唯一、英語による精神的オンラインサポート、危機回避、および自殺防止サービスを、日本全国どこでも提供可能な、チャットネットワーク。</p> <p>※使用するソフトウェア iCarol・・・危機管理、ヘルプライン、情報提供を目的とするコールセンター用に特別に作られた、世界初の商用、サブスクリプションベースの接続・コンタクト管理ソフトウェアシステム。ライブチャット、テキストとSMSオプション、コールデータ管理、ボランティア管理、情報源提供のデータベース管理などが可能となる。</p>